



三家和歌集

全

下河守長流名撰

水卜長嘯子集
晚年集
万叶集

律菴文字

特別
イ 4
3163
20



貴
14
3163
20



之家和歌集

長嘯

下河色長流撰

年四十五

少うれきこころとこころはあはれけし一あはれあまはたはあ
こころもあはれけしあはれあまはたはあこころもあはれけし
あはれきこころとこころはあはれけし一あはれあまはたはあ

さし

井出はは谷川子やこころはあはれけしあはれあまはたはあ

わかれ

こころもあはれけしあはれあまはたはあこころもあはれけし
あはれきこころとこころはあはれけし一あはれあまはたはあ

常

よもひの朝の梅はあはれけしあはれあまはたはあ

いかにせん梅の香も向う胡麻の起るくいつたは夢いさきつ
かしくもさびしうさうこれいふもさうかきうあふこれさやうき
きのかうさきう竹のねあふいりまうこれさうわれあふひさき
ねとせぬ人となきやういふこれいふねほふさきあふさ
やうあふさういふあふいふあふいふあふいふいふいふいふ

曉鶯

うつくしうこれさびいねく成あへいふさうのきさういふに月を影れ

梅

うめりもむ月花の一本さきやうはさうあき種りさういふ
まは東のうううううううううううううううううううう
梅のさうさきうのうさういふさうさうさうさうさうさう
うううううううううううううううううううううううう

うう世風を帯へたやいふさう一社候いふさう梅うさ
うめりもむ白うの園もさうさうさうさうさうさうさう
あふさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

柳

あふさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
あふさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
あふさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
あふさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

まき雨

あふさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
あふさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
あふさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
あふさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

夕立

夕立は杉の梢に影を落とすわかれ橋を又くりかへ
申すお地の生る衣につかへも神よと申す風の
しらべをうきわく候ふにわよと申す川筋のうき

秋舞

秋まゝの風

まのよも何とやらあつたふらふらと
をさかすねねとまゝに昔のうき地やうき
風がたつたつきのあつたふらふらと
万々あつたふらふらと地味をうきうき

後暑

おこしとあつたふらふらとおこしとあつたふらふらと

七夕

うきまゝのうきまゝのうきまゝのうきまゝの
うきまゝのうきまゝのうきまゝのうきまゝの
うきまゝのうきまゝのうきまゝのうきまゝの

七夕

天の川に舟を乗せしむるは舟をよむる

七夕

吹りよ石のうきまゝの七夕のうきまゝの

七夕

うきまゝのうきまゝのうきまゝのうきまゝの

萩

まゝのうきまゝのうきまゝのうきまゝの

うららかに母のこり果々山本此處を月夜に遊んで
山に上りて月夜を眺むるはわが心ゆくも
いふこともなく人山に里のこりては秋の夜を月

海を月

うららかに海を月夜の夜に歩んで
うららかに海を月夜の夜に歩んで
うららかに海を月夜の夜に歩んで
うららかに海を月夜の夜に歩んで

雨後月

うららかに枝や葉ついで
うららかに枝や葉ついで
うららかに枝や葉ついで
うららかに枝や葉ついで

田家秋興

うららかに田を月夜の夜に歩んで
うららかに田を月夜の夜に歩んで
うららかに田を月夜の夜に歩んで
うららかに田を月夜の夜に歩んで

持衣を月夜

うららかに衣を月夜の夜に歩んで
うららかに衣を月夜の夜に歩んで
うららかに衣を月夜の夜に歩んで
うららかに衣を月夜の夜に歩んで

おぼろ

うららかにおぼろを月夜の夜に歩んで
うららかにおぼろを月夜の夜に歩んで
うららかにおぼろを月夜の夜に歩んで
うららかにおぼろを月夜の夜に歩んで

善哉

うららかに善哉を月夜の夜に歩んで
うららかに善哉を月夜の夜に歩んで
うららかに善哉を月夜の夜に歩んで
うららかに善哉を月夜の夜に歩んで

夕々并

神々

休き月より川邊此よりありて定めたりとも冬はまはにけり
おもしろき月を月神とて是れけりはけりはけり
くは世よりくはありてはけりはけりはけり
一村もさるはけりはけりはけりはけり
本堂より時をけりはけりはけりはけり

時雨

ちりちりちりちりちりちりちりちりちりちりちりちり

首

この山杉のくはけりはけりはけりはけりはけりはけり
園の裏の本堂此よりけりはけりはけりはけりはけり
石の裏の堂のけりはけりはけりはけりはけりはけり
ゆきから堂にけりはけりはけりはけりはけりはけり

浅葉

杉のくはけりはけりはけりはけりはけりはけり
まよりけりはけりはけりはけりはけりはけりはけり

寒樹交ぬり

冬枯れにけりはけりはけりはけりはけりはけり

冬月

本堂より月をけりはけりはけりはけりはけりはけり
くはけりはけりはけりはけりはけりはけりはけり
まよりけりはけりはけりはけりはけりはけりはけり

冬夜

くはけりはけりはけりはけりはけりはけりはけり

冬とみ

何れもまたなほさしむるはらへんはなほなほさしむるはらへん
おのゝしむるはらへんはなほなほさしむるはらへん
おのゝしむるはらへんはなほなほさしむるはらへん
おのゝしむるはらへんはなほなほさしむるはらへん
おのゝしむるはらへんはなほなほさしむるはらへん
おのゝしむるはらへんはなほなほさしむるはらへん
おのゝしむるはらへんはなほなほさしむるはらへん
おのゝしむるはらへんはなほなほさしむるはらへん

おのゝしむるはらへんはなほなほさしむるはらへん

長流

世の人にもよるはなほなほさしむるはらへん
おのゝしむるはらへんはなほなほさしむるはらへん

おのゝしむるはらへんはなほなほさしむるはらへん

長嘯集終

三家和歌集 中 長流 晩華集

延宝九年五月二十一日 下河邊長流五十五歳自集

春并九十三首

年因立春

おのゝしむるはらへんはなほなほさしむるはらへん
おのゝしむるはらへんはなほなほさしむるはらへん
おのゝしむるはらへんはなほなほさしむるはらへん
おのゝしむるはらへんはなほなほさしむるはらへん
おのゝしむるはらへんはなほなほさしむるはらへん
おのゝしむるはらへんはなほなほさしむるはらへん
おのゝしむるはらへんはなほなほさしむるはらへん
おのゝしむるはらへんはなほなほさしむるはらへん

おのゝしむるはらへんはなほなほさしむるはらへん

子母の巻

おのゝしむるはらへんはなほなほさしむるはらへん

小松のうらみ川にうらみの井戸をのひきしむれよ子代にうらみ
六帖紙をよみよきとくし申よ白き

若菜

しんせれ産よしれ川あをくくまらうやうれあめのいさかき
いんぬきと香よれうれ七経うらうらうらうらうらうらうら
そりあめのうらうらまをあきまにれうらうらうらうらうら
そりあまううう金とまらうらうらうらうらうらうらうらうら
胡菜摘みうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
川よらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

まの舞

うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

鶯

うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

梅

とくまのこころをよみてしるすはなはな
源帚本
とくまのこころをよみてしるすはなはな
とくまのこころをよみてしるすはなはな
常世のこころをよみてしるすはなはな

稚

旅のこころをよみてしるすはなはな
いとくまのこころをよみてしるすはなはな
みづのこころをよみてしるすはなはな
経路のこころをよみてしるすはなはな

去駒

あまのこころをよみてしるすはなはな
あまのこころをよみてしるすはなはな

野火

あまのこころをよみてしるすはなはな
あまのこころをよみてしるすはなはな

雲雨

くまのこころをよみてしるすはなはな
くまのこころをよみてしるすはなはな
くまのこころをよみてしるすはなはな
くまのこころをよみてしるすはなはな

花

あまのこころをよみてしるすはなはな
あまのこころをよみてしるすはなはな
あまのこころをよみてしるすはなはな
あまのこころをよみてしるすはなはな
あまのこころをよみてしるすはなはな
あまのこころをよみてしるすはなはな

月乃中此桂をこゝろにさしこゝろにさしこゝろにさしこゝろにさし
よよよちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちち
あやあやあやあやあやあやあやあやあやあやあやあやあやあや
よよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよ
こころこころこころこころこころこころこころこころこころこころ
山風よみよみよみよみよみよみよみよみよみよみよみよみよみ
悟契神のこころをさしこゝろにさしこゝろにさしこゝろにさし
よよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよ
花同室のこころをさしこゝろにさしこゝろにさしこゝろにさし
まゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆ

落葉

落の葉をみねるがこころにさしこゝろにさしこゝろにさしこゝろにさし
こころをさしこゝろにさしこゝろにさしこゝろにさしこゝろにさし
あやあやあやあやあやあやあやあやあやあやあやあやあやあや
よよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよ
こころこころこころこころこころこころこころこころこころこころ
山風よみよみよみよみよみよみよみよみよみよみよみよみよみ
悟契神のこころをさしこゝろにさしこゝろにさしこゝろにさし
よよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよ
花同室のこころをさしこゝろにさしこゝろにさしこゝろにさし
まゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆ

わ

とわらふ花をよまひていづる花はよのこゝろに
まじりていそぎにまじりていそぎにまじりていそぎに

いそぎに

いそぎにまじりていそぎにまじりていそぎに
まじりていそぎにまじりていそぎにまじりていそぎに

いそぎに

蟬

夕べにまじりていそぎにまじりていそぎに
まじりていそぎにまじりていそぎにまじりていそぎに

取巻人

お尋ねありていそぎにまじりていそぎに
まじりていそぎにまじりていそぎにまじりていそぎに

蓮

いそぎにまじりていそぎにまじりていそぎに
まじりていそぎにまじりていそぎにまじりていそぎに

夕べにまじりていそぎにまじりていそぎに

お尋ねありていそぎにまじりていそぎに
まじりていそぎにまじりていそぎにまじりていそぎに

いそぎに

いそぎにまじりていそぎにまじりていそぎに
まじりていそぎにまじりていそぎにまじりていそぎに

いそぎにまじりていそぎにまじりていそぎに
まじりていそぎにまじりていそぎにまじりていそぎに

夕

いそぎにまじりていそぎにまじりていそぎに
まじりていそぎにまじりていそぎにまじりていそぎに

かゝる世よりおぼろしくはなれども
なまじりくはなれども
笑うはなれども
六帖の歌を後集の歌の中よと文はるなり

なまじり

けろろこれこそまじりぬも余りけり
つものちりもまじりぬも虎よめり
秋のまじりぬもまじりぬも
まじりぬもまじりぬも
まじりぬもまじりぬも
まじりぬもまじりぬも

玉川に
月夜
まじりぬもまじりぬも
まじりぬもまじりぬも
まじりぬもまじりぬも
まじりぬもまじりぬも

整花雷人

まね
六帖の歌に
川萱よりわらわ

虫

右の十九
左の十九

ゆふゆふれはしつりつり
さうれうの命を露よりし
百子たはも

けしきみららるるも
はらみららるるも

鶉

ほろもろくろ秋より
ねんまよふれを衣を
藤

藤

うらみのよ藤を
つ方慈よ方を
つらさをあつらふ

秋風

ゆく風よあつらふ
くれはしつりつり

秋夕

旁

ゆふゆふれはしつりつり
さうれうの命を露よりし

月

秋の夜更なる川より
あつらふも藤より
秋もあつらふも
うらみのよ藤を

葵沖け出せる歌よとくおぼる舞の何ぞとてよかせ
この時隣家の紅葉

秋の紅葉
恒らえとくゆるさぬを引きよめよとて使ひとていへりよみから葉

ちりぬよふ山の本葉は影し如しおわつるに秋まじりて
まじれりつらとまじりて秋まじりて山は舟の影りよみから
むよほりてむらじりて秋まじりて山は舟の影りよみから
よみからむらじりて秋まじりて山は舟の影りよみから

暮秋

秋まじりて山は舟の影し如しおわつるに秋まじりて
まじれりつらとまじりて秋まじりて山は舟の影りよみから
むよほりてむらじりて秋まじりて山は舟の影りよみから
よみからむらじりて秋まじりて山は舟の影りよみから

冬舞 七十首

初冬

法界のわきまをわきまをわきまをわきまをわきまを
非れ月せりねいふにわきまをわきまをわきまをわきまを
木葉いふにわきまをわきまをわきまをわきまをわきまを
しわきまをわきまをわきまをわきまをわきまをわきまを
まきまをわきまをわきまをわきまをわきまをわきまを
人あまのまきまをわきまをわきまをわきまをわきまを
まきまをわきまをわきまをわきまをわきまをわきまを

冬舞

まきまをわきまをわきまをわきまをわきまをわきまを
まきまをわきまをわきまをわきまをわきまをわきまを
まきまをわきまをわきまをわきまをわきまをわきまを
まきまをわきまをわきまをわきまをわきまをわきまを

ふりつらん 流しむらさき 雲の影をさす 夕陽の川に
くさくさな 花を 飾る 井の 淵に 水は 清く 澄み たる 花
ちりちり 花びら 散る ころも 花の 影を 照らす 花の 影を 照らす
ふりつらん 流しむらさき 雲の影をさす 夕陽の川に
くさくさな 花を 飾る 井の 淵に 水は 清く 澄み たる 花
ちりちり 花びら 散る ころも 花の 影を 照らす 花の 影を 照らす
ふりつらん 流しむらさき 雲の影をさす 夕陽の川に
くさくさな 花を 飾る 井の 淵に 水は 清く 澄み たる 花
ちりちり 花びら 散る ころも 花の 影を 照らす 花の 影を 照らす

爲兼入 花よさき こと

ふりつらん 流しむらさき 雲の影をさす 夕陽の川に

花よさき こと

くさくさな 花を 飾る 井の 淵に 水は 清く 澄み たる 花
ちりちり 花びら 散る ころも 花の 影を 照らす 花の 影を 照らす
ふりつらん 流しむらさき 雲の影をさす 夕陽の川に
くさくさな 花を 飾る 井の 淵に 水は 清く 澄み たる 花
ちりちり 花びら 散る ころも 花の 影を 照らす 花の 影を 照らす
ふりつらん 流しむらさき 雲の影をさす 夕陽の川に
くさくさな 花を 飾る 井の 淵に 水は 清く 澄み たる 花
ちりちり 花びら 散る ころも 花の 影を 照らす 花の 影を 照らす

南土の山はちやあやしいよめらうし一申す

うせのよもいふにわはれはるしゆてなうよまるとりちゆける
天の川みまふいふにまつりちまふりませいしうせしとふ
うのぬよのほつてこれと天地のまふしゆ解もこれちけり
ふのぬれ雲よよぬれとらちのまふりちよ下よとらち
ふこりぬ天の川せれとれとちけり世のまふりち
不盡れ根かのまふりち世のまふりちまふりち
らちちのまふりち世のまふりちまふりち
うせのよもいふにわはれはるしゆてなうよまるとりちゆける
まふりちのまふりちまふりちまふりち
うせのよもいふにわはれはるしゆてなうよまるとりちゆける
うせのよもいふにわはれはるしゆてなうよまるとりちゆける

ともちれあまらうきふのけりしゆてなうよまるとりちゆける
日にかまふりちまふりちまふりち
六帖のまふりちまふりちまふりち

曉

うせのよもいふにわはれはるしゆてなうよまるとりちゆける
夕

老子 吾不知誰之子象帝之先

莊子のち

うせのよもいふにわはれはるしゆてなうよまるとりちゆける
まふりちのまふりちまふりちまふりち

長歌

はれみちかきくよとけりけりるるむらさき

つるさか	やま風	しづれ	そらも
木葉	くづれ	あま	くれ
しき	かき	お	ま
こや	あ	こ	ま
しづれ	く	か	む
くれ	あ	ま	む
志	衣	い	ん
い	枕	か	き
鳴	お	の	の
巻	手	い	の

つるさか	ま	ま	林
目	大	う	ら
住	あ	け	い
よ	波	あ	い
さ	入	く	れ

長流集終

三家和歌集 下契冲 万吟集

延宝九年 四月十八日
沙門契冲 四十二歳自集

春舟

年内立春

常しをさうぬくさり此より内よさうぬくさうまふたあらん

リあて流流ゆるる百さるさうあふよ 千四十七

みよりけしよままふり同くあふよの三洲也 又かすむらん

えり子母よあふりさう

つね乃今一舟のまふらも子らよあふりさうあふらん

鹿

さあれその入の松を雪けりし門むきけりけりか
いとふらけりしとさうあふりまはれまはれさうあふらん
まはれまはれさうあふりまはれまはれさうあふらん

梅の香

◇
こころに梅の香は
よみ来

おのころの梅の香は
庭よれ梅の香は
やうちの梅の香は

けいさく
梅の香は

凌雲

こころに梅の香は
よみ来

凌雲

こころに梅の香は
よみ来

二月

こころに梅の香は
よみ来

寫

こころに梅の香は
よみ来

梅の香

梅の香は
よみ来

梅の香は

梅の香は
よみ来

梅の香は

梅の香は
よみ来

梅

梅の香は
よみ来

深山花

おん山乃花ね花ははるかにさかすかに咲く

古寺花

深山花を流るる滝のほとりには古寺の

雨後花

雨のちの山は花の香りがあふく

花の香

花の香は山をよぎる

花の香

花の香は山をよぎる
花の香は山をよぎる
花の香は山をよぎる
花の香は山をよぎる
花の香は山をよぎる

山風は花をよぎる
山風は花をよぎる
山風は花をよぎる
山風は花をよぎる
山風は花をよぎる

花の香

花の香は山をよぎる
花の香は山をよぎる
花の香は山をよぎる
花の香は山をよぎる
花の香は山をよぎる

友

花の香は山をよぎる
花の香は山をよぎる
花の香は山をよぎる
花の香は山をよぎる
花の香は山をよぎる

や万有花

おもむくさとしのこころをわづらひて山あはれ花
言春

常れかたにむねをわづらひて山あはれ
東海より北の山あはれ

夏哥

更衣

山あはれを長衣にせしむるは
さうさよき衣をせしむるは
さうさよき衣をせしむるは
并にせしむるは
さうさよき衣をせしむるは

残花

夏衣のぬるはれしむるは

新樹

さうさよき衣をせしむるは
このはな

さうさよき衣をせしむるは
島はさうさよき衣をせしむるは

あひい

日るねのさうさよき衣をせしむるは
はな

さうさよき衣をせしむるは
さうさよき衣をせしむるは
さうさよき衣をせしむるは

うきまうしつちまのなまこいふ山部こころこころ
おしよあまのしんが川にほろろとせりしつちまの
郭と筆うり雪よりあつたまをそとせりしつちま
ねたれをこころいふまのあつたまをそとせりしつちま
こころいふ田子も付しつちまをそとせりしつちま
月夜郭一公

まうあまのしんが川にほろろとせりしつちまのなまこいふ山部こころこころ

楯

橋よりけしむるあつたまのなまこいふ山部こころこころ
あつたまのなまこいふ山部こころこころ

あつたまのなまこいふ山部こころこころ
あつたまのなまこいふ山部こころこころ

又月雨

あつたまのなまこいふ山部こころこころ
あつたまのなまこいふ山部こころこころ

おや

あつたまのなまこいふ山部こころこころ
あつたまのなまこいふ山部こころこころ

水鏡

あつたまのなまこいふ山部こころこころ
あつたまのなまこいふ山部こころこころ

つはよ花掃り白く花のさしつる花をよる花をよる

夏草

ささりよのさしつる花をよる花をよる

五月

いよのさしつる花をよる花をよる

梅雨

いよのさしつる花をよる花をよる

下

いよのさしつる花をよる花をよる

草

いよのさしつる花をよる花をよる

水

いよのさしつる花をよる花をよる

泉

いよのさしつる花をよる花をよる

いよのさしつる花をよる花をよる

水

いよのさしつる花をよる花をよる

納涼

いよのさしつる花をよる花をよる

いよのさしつる花をよる花をよる

夏草

いよのさしつる花をよる花をよる

夕立

あつ川ゆりしるなよさうねむてゆき水葉はまきしるも
あつらふもあつらふもあつらふもあつらふもあつらふも
あつらふもあつらふもあつらふもあつらふもあつらふも

笠夕立

矢田おゆりハ夕立しるなよさうねむてゆき水葉はまきしるも

蓮

池水浅ゆき蓮花しるなよさうねむてゆき水葉はまきしるも

荒和祓

みろく川風しるなよさうねむてゆき水葉はまきしるも
伊波川はしるなよさうねむてゆき水葉はまきしるも

秋并

立秋

をさうらふはしるなよさうねむてゆき水葉はまきしるも
あつらふもあつらふもあつらふもあつらふもあつらふも
あつらふもあつらふもあつらふもあつらふもあつらふも
あつらふもあつらふもあつらふもあつらふもあつらふも

七夕

あつらふもあつらふもあつらふもあつらふもあつらふも
あつらふもあつらふもあつらふもあつらふもあつらふも
あつらふもあつらふもあつらふもあつらふもあつらふも
あつらふもあつらふもあつらふもあつらふもあつらふも

あつらふもあつらふもあつらふもあつらふもあつらふも

百三十三 方此中に国月七夕

天の川を流るる月夜は夕うしよにささるる花の影をたわぶりに

七夕雨

夕ゆふの雨は天の川を流るる花の影をたわぶりに

七夕後終

天の川を流るる月夜は夕うしよにささるる花の影をたわぶりに
天の川を流るる月夜は夕うしよにささるる花の影をたわぶりに
天の川を流るる月夜は夕うしよにささるる花の影をたわぶりに
天の川を流るる月夜は夕うしよにささるる花の影をたわぶりに

秋風

松風は夕ゆふの雨を流るる月夜は夕うしよにささるる花の影をたわぶりに
夕ゆふの雨は天の川を流るる花の影をたわぶりに

露

夕ゆふの雨は天の川を流るる花の影をたわぶりに

萩

夕ゆふの雨は天の川を流るる花の影をたわぶりに

萩

夕ゆふの雨は天の川を流るる花の影をたわぶりに
夕ゆふの雨は天の川を流るる花の影をたわぶりに
夕ゆふの雨は天の川を流るる花の影をたわぶりに
夕ゆふの雨は天の川を流るる花の影をたわぶりに

萩

夕ゆふの雨は天の川を流るる花の影をたわぶりに
夕ゆふの雨は天の川を流るる花の影をたわぶりに
夕ゆふの雨は天の川を流るる花の影をたわぶりに
夕ゆふの雨は天の川を流るる花の影をたわぶりに

女郎花

夕ゆふの雨は天の川を流るる花の影をたわぶりに
夕ゆふの雨は天の川を流るる花の影をたわぶりに
夕ゆふの雨は天の川を流るる花の影をたわぶりに
夕ゆふの雨は天の川を流るる花の影をたわぶりに

そなた又有る都とがよちりはるの如くひろきこれいけ
なす此の月の本らに結つて出るの屋此秋の月の
夜を静よきとせんてし一頁の舞の舞に

けし乃あを月らふもささるて都りういり又うをねん
ふ月百そのあよこりう年よ

天はあをさくは秋のまもりおかろんやとつらある月け
ねてるん思ふやうはさうあまのまをいさるををたか月

八月十八日

山の都がこもれつらう夕まをいさるあうさうり待てる

秋月如畫

是月八日山よりういさるあまのまをいさる月け

禁月

月よりあまのまをいさるあまのまをいさるあまのまをいさる
子やあまのまをいさるあまのまをいさるあまのまをいさる

七

けし此まをいさるあまのまをいさるあまのまをいさる
さうあまのまをいさるあまのまをいさるあまのまをいさる
あまのまをいさるあまのまをいさるあまのまをいさる

八

夕風をいさるあまのまをいさるあまのまをいさる
あまのまをいさるあまのまをいさるあまのまをいさる
あまのまをいさるあまのまをいさるあまのまをいさる

麻

ふらふらとこれらにたゞしむるに
揮つた事やこころいふまゝに
はるねの別うらなはたつた

あつたやこれをおくはるら
後芽糸緒の床も妹いふ
朝露おさうらあ

袴衣

秋のあもさをこころなす
の枕むく一衣のこころ

稷田

いしちやまのた田の西は
あつたやこころいふまゝに

菊

秋のあもさをこころなす
の枕むく一衣のこころ

わが山にたつた
大か川にたつた

おは

山にたつた
おは

母こそけし

菅家

あつたやこころいふまゝに

善秋

秋はきよく〜秋はきよく〜白雲のうらみ〜西の空〜

冬舞

舞子

秋は月を雪に白く〜秋は月を雪に白く〜

舞

秋は月を雪に白く〜秋は月を雪に白く〜

舞

秋は月を雪に白く〜秋は月を雪に白く〜

秋は月を雪に白く〜秋は月を雪に白く〜

冬舞

秋は月を雪に白く〜秋は月を雪に白く〜

残葉

秋は月を雪に白く〜秋は月を雪に白く〜

霜

秋は月を雪に白く〜秋は月を雪に白く〜

山さしほくさるる夜ををりてよあけ

冬うれし草花ははる大しと申くもゆもあけのさしほ

冬に新し申に

冬うれし柳の枝はくさるる夜ををりてよあけ

寒月

やが川より寒りまればすしむるよあけのさしほ
さしほく山より雪のさるる夜ををりてよあけ

歩

かほくさるる夜ををりてよあけ
ゆきもあけのさしほく山より雪のさるる夜ををりてよあけ
やが川より寒りまればすしむるよあけのさしほ
さしほく山より雪のさるる夜ををりてよあけ

行く川より寒りまればすしむるよあけのさしほ

寒月

冬うれし草花ははる大しと申くもゆもあけのさしほ

冬

冬うれし柳の枝はくさるる夜ををりてよあけ
冬うれし草花ははる大しと申くもゆもあけのさしほ

千鳥

冬うれし柳の枝はくさるる夜ををりてよあけ
冬うれし草花ははる大しと申くもゆもあけのさしほ
山里の雪のさるる夜ををりてよあけ
冬うれし柳の枝はくさるる夜ををりてよあけ

雪

おのゝこゝろ

山風うらうらふ松よりわきへさつたなうらうらうらうら

魚

いけ池に底うらうらと伝ひまはれ月一高はれ果てしれを

寄車

鳥をよむりあつそあふうらうらうら車はくしゆわら

寄花

はらとよらうらうらわらまはらうらうらうらうらうら

寄

清神の雪はれまのなうらうらうらうらうらうらうら

祈戀

ゆせ川に流る松本のなうらうらうらうらうらうらうら

幼

あはれはれはれはれはれはれはれはれはれはれはれはれ

あま

みりあまうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

宿

うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

待

何故うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

あはれなる御心にて何れも御心にて
おぼしめされし御心にて何れも御心にて
おぼしめされし御心にて何れも御心にて

連書待立

おぼしめされし御心にて何れも御心にて
おぼしめされし御心にて何れも御心にて

久待立

あはれなる御心にて何れも御心にて
おぼしめされし御心にて何れも御心にて

契立

あはれなる御心にて何れも御心にて
おぼしめされし御心にて何れも御心にて

あはれなる御心にて何れも御心にて
おぼしめされし御心にて何れも御心にて

不待立

あはれなる御心にて何れも御心にて
おぼしめされし御心にて何れも御心にて

契立

あはれなる御心にて何れも御心にて
おぼしめされし御心にて何れも御心にて

契立

あはれなる御心にて何れも御心にて
おぼしめされし御心にて何れも御心にて

久し此邦をまゝにおりわろかるもとらや〜
あゝ〜
う〜
風〜
い〜
ら〜
よ〜

庵

う〜
莊子をりそよあ〜

孟宗

私山〜

ふ〜

蔡順

桑〜

殷湯王

よ〜

惟喬のみ〜

秋〜

い〜

ま〜

い〜

ら〜

〜

雲居藏

Handwritten text in cursive script, likely a library or collection name, possibly including the characters "雲居藏" (Yunju Collection).

72